

令和元年10月7日



担当課	総務企画課
担当者	福島・岩垣
電話	(073) 488-5102
内線	

「日本紅斑熱」の届出が増加

～野山で注意！ダニからの感染症～

春から秋にかけて、キャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。この時期、ダニの活動が活発な時期にも重なり、ダニがウイルスや細菌などを保有している場合、咬まれた人が病気を発症することがあります。

和歌山市におきましては、ダニに咬まれることで発症する感染症のひとつである、「日本紅斑熱」の届出が増加しています。今年はずでに7件の届出を受け、その内4件が10月に入り、集中して届出されています。

野山など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン・帽子など、肌の露出を少なくすることが大切です。

《日本紅斑熱の発生状況》

令和元年10月7日現在

	和歌山市	和歌山県（市内含む）
2019年	7	22
2018年	4	32
2017年	7	51
2016年	2	17
2015年	0	17

症 状

日本紅斑熱は、マダニに刺されてから2～8日後に、高熱、発疹、刺し口（マダニに刺された部分は赤く腫れ、中心部がかさぶたになる）が特徴的な症状です。紅斑は高熱とともに四肢や体幹部に広がっていきます。紅斑は痒くなったり、痛くなったりすることはありません。治療が遅れば重症化や死亡する場合があります。

ダニに咬まれないためのポイント

マダニは木の葉や草むらの土の表面に生息しています。

- ・できるだけ草むらに入らない。
- ・野山に行く時は長そで、長ズボンなどできるだけ肌を露出しない。
- ・シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる。
- ・草の上に直接座ったり、寝転んだりしない。敷物を利用する。
- ・脱いだ上着やタオルは、不要意に地面や草の上に置かない。
- ・虫よけスプレーを活用する。
- ・野外活動後は、入浴し、マダニ咬まれていないか確認する。

ダニに咬まれた場合の対処法

- ・無理に引き抜こうとせず、医療機関で処置して下さい。
- ・ダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。